



行動計画

(ICRI 事務局 / 2003 ~ 2004 年)

現在、ICRI 事務局はイギリスとセイシェルによって共催されている。本行動計画は、事務局の任期である 2 年間（2003 年 7 月 1 日から 2005 年 6 月終わりまで）のものである。任期中に予定された主要な活動を Annex 1 として提示した。

事務局の主要任務の一つは、年 2 回開催される ICRI 総会を開催・運営することである。また、本計画では、総会とは別に、特に以下の 4 つの項目を ICRI が継続して実施することを盛り込んでいる。

- ・アクションポイント 1: サンゴ礁の重要性に関する普及啓発;
- ・アクションポイント 2: ICRI の「行動の呼びかけ」、「行動の枠組み」、およびヨハネスバークの「実行計画」に基づいて構築された ICRI ネットワークの枠組みを広げる;
- ・アクションポイント 3: 国連団体、各国政府、地方海域プログラム、資金提供機関などとの間で、サンゴ礁問題に関する協力を推進する;
- ・アクションポイント 4: サンゴ礁の保全や持続可能な開発、および統合的な沿岸域管理を行っている地方開発プロジェクトに対して、より資金提供機会を増やすために、特に民間部門の関与をより促進させる。

ICRI のコミュニケーション戦略（Annex 2 に概説されている）を構築することは、上のポイント 1 ~ 4 の活動を行うためにあらかじめ必要なことである。それは、いくらサンゴ礁関連において ICRI がいかに特別な経緯と位置を占めていようとも、人によって ICRI の持つ意味が異なるからである。そのような時、明確なコミュニケーション戦略があれば、ICRI メンバーの間で ICRI の存在理由を定義するのに役立ち、結果的に、上の活動ポイントの促進を容易にすることを助けるだろう。

他の ICRI メンバーへの要請

総会の出席メンバーには、以下の点を要請する：

- ・ Annex 1 と Annex 2 の内容を吟味すること;
- ・ ICRI の活動に関する理解と認識を促進するために、コミュニケーション戦略の適切性について検討すること。

Annex1: イギリス-セイシェル共同事務局 (2003-2005) による主要活動予定

年	活動	予定時期	備考
2003	事務局引継ぎ	7月	完了(スウェーデン/フィリピン事務局から)。
	総会	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターコス・カイコス諸島 (2003年11月17-19日) ・ 1999年以来同意されたICRIの施策、ICRIワーキンググループの活動、およびメンバーの会員資格に関する再調査・検討結果について発表する。
	小規模資金援助	9月/11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトの招待と申請の受け付けに関するアナウンス ・ 審査の第1段階で申請を受け付け、第2段階でより具体的な申請書の提出を求める。適当な申請案は2003年11月の総会で発表する。
2004	総会	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の国際サンゴ礁シンポジウム (ICRS) に引き続いて沖縄(日本)で開催。 ・ 進捗の現況を報告。
		11月	セイシェル諸島を候補地に予定
	小規模資金援助		2004年の日本での総会で (約12カ月間の) 進捗状況を発表する
	閣僚級会議におけるサイドイベントの実施	未定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省庁間の会議の場において、ICRIがサイドイベントを催す機会を提供する。 ・ これによって、各国の政府レベルでの認識向上を図る。
2005	総会	5月/6月	開催場所未定
	小規模資金援助	4月/5月	小規模資金援助プロジェクトの最終結果報告
	事務局引継ぎ	2005年5月から	

Annex2: ICRI コミュニケーション戦略

このコミュニケーション戦略は、他のサンゴ礁に関係する人々や機関に対して、ICRI の目的と目標をはっきりさせるのに役立つだろう。

コミュニケーション戦略では、ICRI の経緯を明瞭にし、ICRI が何をどのように行うのか、そして、ICRI を支えている個々のメンバーの活動とどのように異なるのかなどを明らかにする。そして、それらは一般大衆、メディア、国連団体、各国政府、およびコマーシャルベースな民間部門など、様々なスタイルの対象者にとっても明瞭で分かりやすい言葉で提供される。

コミュニケーション戦略では、事務局が ICRI の「行動の呼びかけ」、「新・行動の枠組み」、状況報告書（例えば、サンゴ白化現象や病気など）などを再調査・検討することによって、ICRI が今後 2 年間の活動を展開していく上で、どれだけこれらが有用かを調査・検討する。

各国政府：小島嶼開発途上国（SIDS）の国々など、ICRI と関わりをもっていないサンゴ礁を保有する国々、あるいは、（ICRI が対象範囲を広げる場合は）深海性サンゴ礁を保有している国々、またはドイツなどのように、自国の観光客のレジャーなどを通して間接的にサンゴ礁と関わりを持っている国々、などを対象とする。

国連機関：UNDP、FAO、ユネスコなどを対象とする。UNEP-CRU（国連環境計画・サンゴ礁部門）の「政策評価書」（policy review）は、どのような機関や協定がサンゴ礁関連の政策をもっているかを知るのに非常に有効で、事務局が対象者（機関）を選定するのに有用な基礎情報である。この作業は 2003 年 9 月に終了する予定で、11 月の総会の決議案のための情報として利用することができる。

民間部門：健全な状態のサンゴ礁に明確な経済的誘因が存在している民間企業（例えば：観光業者、潜水産業、水族館卸売業者、漁業者、航空会社など）を対象とする。多くの ICRI メンバーは既にこれらのセクターとなんらかの関係を持っているだろう。

一般大衆：本質的に、一般大衆は最も多様かつまとまりがなく、組織的にアプローチするのが最も難しい対象である。事務局ができることは、少しでもサンゴ礁に関心がある一般大衆にアプローチする方法を検討することである。一つの可能性としては、民間企業のパートナーの通常の業務対象である顧客を対象とすることである。例えば、ダイビング業者は会員名簿を持っているし、水族館卸売業者はペットショップのネットワークを保有している。また、観光業者では、通常、業者が提供している各地の適正なサンゴ礁の情報によって休暇の行き先を検討する多数の顧客と接触がある。

上記の対象においては、それぞれに適正なメディア（例えば：印刷物、ラジオ、ビデオ、言語）を特定する必要があり、これは対象とするグループや地理的な条件によって大きく異なる。

過去の ICRI の成功事例（あるいは過去の ICRI の失敗から学んだ教訓）は、これらの対象にアプローチする際に非常に役に立つ。事務局は、ICRI の創設（1994 年）以来のこれまでの成果について、委託あるいは独自で再評価し、SWOT 解析を試みることができる。この試みは、場合によって厄介な結果を招く恐れもあるが、非常に有用な情報と方向性を、この先 2 年間に渡って ICRI メンバーに提供することができる。

期限：次回の国際サンゴ礁シンポジウム（ISRS）は ICRI の 10 周年に行われる。会議が予定されている沖縄では、ICRI はそれまでの 10 年間に築き上げてきた成果を明らかにし、これまでの業績を強調するとともに、ICRI の将来的な計画に対して皆の関心を集めるようにすべきである。